令和６年度　第２回白井市地域公共交通活性化協議会

日　　時：令和７年３月14日（金）午後１時30分から午後4時20分

場　　所：白井市役所本庁舎２階　災害対策室１、２、３

出席委員：山下英之会長、板谷和也副会長、野口和雄委員、太田英寿委員、窪田智之委員
徳永敬委員、山﨑勝巳委員、島ノ江啓一委員、成田斉委員、三橋裕樹委員、
横山潔委員、髙山弘美委員、今井庄一郎委員、山田夏美委員、
小林聡委員（代理　松澤氏）、佐藤雅彦委員、荒木健一委員（代理 伊藤氏）、
宇田川清美委員、村越貴之委員、石田典子委員、奥村敏直委員、小島健太郎委員、
大高一穂委員
２３名（うち代理出席２名）

欠席委員：船本彩花委員　１名

事務局：伊藤都市建設部長、鈴木都市計画課長、青木主査補、木山主事

傍 聴 者：８名

１　開会

２　令和６年度第２回白井市地域公共交通活性化協議会

[事務局報告事項]

○ 出席委員は委員２４名中、２３名（内、代理出席２名）であり、白井市附属機関条例第６条第２項の規定による会議開催要件（委員の過半数が出席）を満たしているため、会議は成立しています。

○ 本会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針により、原則公開とするとともに、会議録等含め公開を予定しております。

（１）議題１　地域公共交通計画の見直しについて

【議長】

- それでは次第に従いまして会議を進行させていただきます。
- 議題１、地域公共交通計画の見直しについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- 議題１地域公共交通計画の見直し、①地域公共交通計画と策定スケジュール（案）について説明をさせていただきます。
- 昨年7 月に開催した第1 回会議の際、議題として計画策定のスケジュール（案）について、説明をさせていただきました。
- はじめて計画策定にたずさわる委員がいる中で、もう少し丁寧に説明すればとの反省点もあり、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、計画自体の説明も含めて、計画策定の全体のイメージがみなさんと共有ができるよう、今回説明をさせていただきたいと思います。
- Ａ４の資料 １ページをご覧ください。１、地域公共交通計画についてです。
  地域の主体的な取組等によって、持続可能な地域旅客運送サービスを確保し地域公共交通の活性化及び再生を推進するため、地域公共交通計画の作成やこれに基づき実施する事業等について定めた「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が平成１９年に制定されました。
- 地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものであり、地域公共団体が地域の移動に関する団体を集めて「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に定める協議会を開催し、交通事業者や地域の関係者等との協議を重ねることで作成するものとされています。
- 次に２、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の主な改正点についてです。
  令和２年の改正では、地域公共交通網形成計画を地域公共交通計画と改め、地方公共団体の作成を努力義務といたしました。
- このことから、今後計画については、「地域公共交通計画」の名称で統一していきたいと考えています。
- 令和５年の改正では、計画策定の１つのポイントとして考えている、自治体・公共交通事業者・地域の多様な主体等の「地域関係者の連携協働」が目的規定に追加されました。
  また、国の努力義務として、関係者相互の連携と協働の促進が追加されています。
- ３番目に、このような中、市の計画策定の取組みがどのような状況だったのか、簡単に説明をさせていただきます。
- まずは、地域公共交通活性化協議会の設置です。
  資料の記載にあるように、計画策定にはこの協議会の役割が非常に重要となってきます。
- 利用者や交通事業者などが現状・問題点を共有し、今後の公共交通の再編を推進していく上での「推進本部」となるため、循環バス等の運賃やルートの合意形成を図るために従前から設置されていた、地域公共交通会議の役割を拡充し、学識経験者など必要な構成員を加えて、平成２８年に法律に基づく協議会への移行・設置となっています。

- このような状況から計画策定・事業推進のため地域公共交通活性化協議会が設置されたと言っても過言ではありません。
- その後、平成３０年の３月に現行の市における初めての地域公共交通計画が策定されました。
- 計画は、地域にとって望ましい公共交通網、公共交通のネットワークを明らかにするマスタープランの役割を果たしており、都市・交通分野の基幹計画であり、都市マスタープランに基づくものとしています。
- 資料は２ページとなります。
  計画期間は、５年間で平成３０年度から平成３４年度、令和ですと令和４年度までとする計画となっています。
- 基本方針は、持続可能で利便性の高い公共交通体系の確立となっており、今後も公共交通を考えていくうえで重要なポイントのひとつだと考えています。
- 当初の計画では令和４年度までとする計画でしたが、平成３１年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、公共交通利用者の減少など、公共交通を取り巻く環境から、交通需要の分析や予測を行うことが難しい状況になり、計画期間を市総合計画後期基本計画期間の終期と合わせて令和7 年度まで延長することとしております。
- その際、計画の内容については、新たな課題を踏まえ、計画期間内に優先して取り組む事業として位置づけをし、昨年７月の会議では各事業の進捗状況について説明をさせていただいたところです。
- 事業の一例をあげると、コミュニティバスへのバスロケーションシステムの導入や、バス停への上屋、ベンチの設置など待合環境の整備などがあげられます。
- ４番目に計画策定、改訂の必要性です。
  地域公共交通網形成計画を策定し、各交通事業者さんの御協力もあり、地域公共交通の活性化に関する様々な施策を行ってきました。
- この間、コロナ禍をはじめ、運転手不足など地域公共交通を取り巻く環境は大きく変わってきています。
- この厳しい状況下においては、持続可能な地域公共交通ネットワーク形成に向け、多様な交通手段を横断的に再構築し、地域の実情に応じたネットワーク及びサービスのあり方を示していくことが求められています。
- これらの課題に対応するため、現行の計画を見直し、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に規定する「白井市地域公共交通計画」を策定する必要があると考えています。
- 次に５番目ですが、計画に記載する事項については、地域公共交通活性化法の第５条に定められています。① 基本的な方針 、②計画の区域、 ③計画の目標、 ④目標達成のための事業及実施主体 、⑤計画の達成状況と評価、 ⑥計画期間、 ⑦その他必要事項となっています。

- 計画の区域については、白井市全域とし、計画期間については、令和８年度から令和１２年度の5年間を予定しています。
- 資料３ページをご覧ください。ここからが計画策定の流れとなります。
  一番上に記載している図につきましては、計画策定までの流れ、イメージをフローにしたものです。
- すでに市民アンケートの実施などや計画策定に向けた準備については、令和６年度から進めている部分もありますが、令和７年度からが本格的な策定作業が始まります。
- 基礎調査としては、実態や現状の把握またニーズの把握をメインとし、これらの基礎調査の結果を現行計画、公共交通の課題整理、コミュニティバスへの検証に活用し、基本方針、目標の設定から施策・事業の検討につなげていきたいと考えています。
- 活性化協議会開催のタイミングなどについては、資料７ページに全体スケジュールの部分で、改めて説明をさせていただきます。
- その前に策定等の視点ということで、今後の計画策定にあたり４点ほどポイントをあげさせていただきました。
- １点目が現行計画の検証と新計画への反映です。
  現行計画で目標がクリアできなかった、あるいは実施できなかった施策について検証し、新計画への反映について検討をいたします。
- ２点目が持続可能な交通ネットワークの維持と取り巻く環境整備です。
  持続可能な交通体系を検討していくには、乗務員不足や利用者の減少など課題となる環境の改善に対応する施策の検討が必要となります。
- ３点目がコミュニティバス「ナッシー号」の検証と改善及び多様な移動手段との相互関係や施策の検討です。
  交通体系という観点では、２ 点目のポイントと共通する部分もありますが、施策の検討という意味合いでは、路線バスの減便・廃止の対策などにもつながることから、重要かつさらに具体的な検討が必要となります。
  この部分については、検討事項ということで、後ほど改めてみなさんに意見を伺いたいと考えていますので、よろしくお願いします。
- ４点目については、施策を実施するための体制や仕組の検討です。
  ここでは、地域住民を含む関係者との連携・協働の部分を位置付けていきたいと考えています。
- 次に基礎調査や関係者のヒアリング調査等の実施について、説明をさせていただきます。
- 基礎調査の実態把握の部分につきましては、市の公共交通の利用実態は、もちろんのこと、上位計画、関連計画の整理により、まちづくり等の方向性を確認していくことが重要であると考えており、市の現状分析の中では、人口動態、移動実態などを参考に地域の特性把握に努めていきます。

- 次に４ページをご覧ください。関係者のヒアリング調査についてです。
- ヒアリング調査の目的としましては、交通事業者等が抱える問題点や課題、地域公共交通に求められる役割、他分野との連携施策等を把握することを目的としています。
- 調査対象について、交通事業者は、北総鉄道、ちばレインボーバス、船橋新京成バス、エミタスタクシー白井、白井タクシー。
- 関係団体につきましては、工業団地協議会、商工会、社会福祉協議会、庁内関係課。
- 関係施設につきましては、病院や市の出先機関の実施を予定しています。
- また、把握したい内容につきましては、一覧に記載されている事項を中心にヒアリング形式で確認をしていきます。
- 次に6 ページをご覧ください。次に市民との意見交換会です。
- 実施の目的につきましては、各地区の実態を市民アンケートの結果やデータをもとに整理し、自身の居住する地区の公共交通の現状と課題に対する改善策や新たな交通サービス等に対する意見を確認し計画策定の参考とすることを目的としています。
- 対象につきましては、各小学校区の市民とし、白井駅前センターほか6 箇所を実施場所として、市からの公共交通に関する現状と課題説明と市民によるワークショップを中心に行っていきます。
- 次に７ページをご覧ください。計画策定に係る全体スケジュールの詳細となります。
- 計画策定にあたっては、策定支援業務としてコンサルタント会社に委託を予定しており、５月中の契約を目指し準備を進めているところです。
- 基礎調査の実態把握及びニーズ調査については、７月を目処に調査等を完了させる予定です。
- その中でも関係者のヒアリングを重視し、必要に応じて７月以降についても実施していく予定としています。
- 各地域の現状と課題などについては、７月終わりから８月の初旬を目安に第１回協議会を開催し、説明をさせていただきます。進捗の状況により、基本方針の方向性についても議論ができればと考えています。
- 第１回協議会終了後、公共交通に対する各地域の実態や特性、課題などをもとに、８月から９月を目に各地域で意見交換会の開催を予定しています。
- 計画案を作成していく上で、引き続き公共交通の問題点・課題の整理を行い、策定の視点の時にも話をしましたコミュニティバス「ナッシー号」の検証と回線及び多様な移動手段との相互関係や施策を含め、市の実情にあった公共交通の方向性の検討作業を進めていきます。
- １０月には、第２回の協議会の開始を予定しています。公共交通の将来需要や運行形態なども勘案しながら、基本方針と目標の設定、施策の検討について実施します。策定のなかでも時間をかけて議論が必要な部分であると認識しているため、状況により協議会の追加開催等も念頭に進めてまいります。

- 協議会として計画の目標達成のための施策・事業の方向性がまとまった時点、現状としては１１月頃を予定していますが、計画策定に係る協議会と市としての合意形成を図る場として、行政経営戦略会議へ状況報告を予定しています。
- 行政経営戦略会議の結果や施策の方針展開などを考慮し、交通計画の素案を作成し、令和８年１月に協議会を開催し承認を得られればと考えています。
- その素案をもって令和８年２月に計画素案に対するパブリックコメントを行い、頂いた意見の反映について検討し、最終的に令和８年３月の協議会で計画案をもとに審議し、計画決定という流れを現状では考えています。
- ここで説明をさせていただきましたのは、現時点の予定として計画策定の全体イメージがみなさまと共有できればと考えております。
- 長くなりましたが、以上が地域公共交通計画と策定スケジュール（案）説明となります。

【議長】

- 非常にボリュームの多い説明でございましたので、若干聞き漏らした部分でございますとか、もう少し分かりやすく説明してほしいとか、いろいろな御意見でございますとか、御不明な点あろうかと思います。
- 何かお聞きになりたいことがございましたら、挙手にてお願いしたいと思うのですけれども、いかがでございましょうか。

【委員】

- ４点ありまして、まず１点目、資料の１ページ目なのですが、白井市における地域公共交通計画の見直しにかかる議題の経緯で、法律の改正等の説明がありました。
- 今回、白井市においては、策定等の視点ということで、現計画、白井市地域公共交通網形成計画と、地域公共交通計画という新しい法律に基づくものが出て、この検証と新しい計画への反映ということでありますので、事務局の説明では、網形成計画で不足だった部分は、何かを検証して、新たな計画に入れるというような説明でございました。
- 地域公共交通活性化体制の法律の中では、網形成計画というのは網ですので、鉄道とかそこを結ぶバスの網というようなことで、既存のバス等の計画が書かれているものが、ほかにもバスだけでない公共交通に係る内容も今回出すというようなことが法律の中に書かれたと思います。
- 今回追加される部分の、今までの検証に加えて新たに白井市で取り組む、網形成計画でやった内容の検証がここに書いてあるのですけれども、新たに公共交通には鉄道もあれば、タクシーもあれば、様々な公共交通があるわけであって、三段跳びのホップ、ステップ、ジャンプの部分と、新たに別なカテゴリーで今回やるという部分といった、白井市では新たにチャレンジする項目があるのでしょうか。
- これについて、補足して御説明いただいたほうが、今までの計画の焼き直しではないという部分がちょっとお伺いできれば、ありがたいというのが１点目の話です。

- 2点目は、関係者ヒアリングの調査ということで、４ページから５ページにかけてお話があった中で、ヒアリング先について全く異論はないのですが、バス事業の関係でお伺いします。
- 白井市内にはナッシー号と呼ばれる白井市が運営をしている、委託したのはバス事業者なのですけれども、そうしたバスが一般路線と一緒に市内を走っています。
- バス事業者としては、千葉レインボーバスと船橋新京成バスにヒアリングが予定されているということなのですが、ここに書いてある人員や車両台数等々の５点の項目は、一般路線としては、このようなヒアリングについてはバス事業者も応じるのですが、ナッシー号については、受託した関係でヒアリングのほうを、市のやっているバスをバス事業者に聞いても、言われるとおりだったのかもしれないのですが。
- ナッシー号に関することも一緒に聞くのか、少し形を変えてヒアリングするのであれば、そこは補足してお伺いできればありがたいなというのが２点目のお話でございます。
- ３点目につきましては、７ページに全体スケジュールというのがございまして、この中でスケジュールの中に、会議が令和７年の７月に第１回をやるということで、全く何も異論があるわけではないのですが、事業のコンサルティング会社に依頼するという説明も理解した上で、上位計画、関連計画の整理、市の概況、市の公共交通利用の現状把握などは、この４月、５月、６月から７月にかけて調査会社が行うと思うのです。
- 市民に対するアンケート調査について、今日は方向性の御説明でしたので、市民の方にどういう内容をお伺いして、全員に配るのかとか、聞く内容によって市民の方の返ってくるアウトプットも変わってくると思うのですが、それが全て結果をこの協議会で聞くようになっているようなスケジュールになっているのです。
- 私は白井市の委員は、バス協会に来る前もいたので非常にいるのですけれども、多分私はそう思うというのを言うと、網形成計画を策定するときも市民の方からアンケートをやっているはずです。
- そうした過去のデータのアンケートも利用しながら、委託する会社には市民の方にお話を伺うという面で、ここに全て、白紙委任状とは申しませんが、聞く内容とか、どういうふうな設計、アンケートの仕方について全く今日は説明がなかったので、そういうようなお考えであるならば理解できます。
- 全くゼロからアンケートを取るのであれば、この協議会の中で合意形成を図ってから、やってはいいのではないかという意見も一部出ると思うので、アンケートの取り方については、補足して御説明をいただければありがたいというのが３点目です。
- 最後４点目は、１年間で短期間に計画を策定する、自治体によっては２年間かけてやるのもあるのですが、白井市の事務局も大変だと思います。
- この事業を委託するという御説明でしたので、国土交通省でもこうした調査業務については、補助事業として国費を調整することを制度的にやっております。

- 白井市では、今回の策定業務については運輸局、また、ほかの省庁でもいいのですけれども、そうした国の御支援をいただきながら進めるのかどうか、これは今の時点で分かっているのであれば御説明いただければありがたいと思っています。
- 以上、４点になりますけれども、よろしくお願いします。

【議長】

- ありがとうございました。では１点ずつお願いします。

【事務局】

- 御質問ありがとうございます。
  まず１点目につきまして、計画の新しく盛り込む法律等について御説明をさせていただきたいと思います。
- とにかく交通事業者の取り巻く環境というのが、2024年問題、コロナ禍ということで非常に大きく変わってきている部分がございます。
- そういった中では交通事業者だけの、自らの自助努力だけでは、なかなか今後、公共交通の安定したネットワークを形成していくことは難しいというふうに考えております。
- 今後は地域、実情に合った、地域の市民とか、あるいは企業、あらゆるそういった資源をいろいろ連携・協働、活用しながら新しい公共交通機関というのも視野に入れて取り組んでまいりたいと思っています。
- ちょっと分かりにくい説明かもしれないのですが、１点目は、とにかく地域と連携・協働というのが、まずは１つのポイントです。
- あとは市民の皆さん自らが、地域公共交通ということで地域の皆さんも一緒に考えていただくというスタンスがこれからは非常に重要になってくるのかなというふうに思っておりますので、その辺の仕組みとか体制、そういったものも念頭に入れながら計画策定のほうを進めてまいりたいと考えております。
- ２点目が、ヒアリングの際にナッシー号の関係で企画会社にというところでお話がありましたが、実は既にナッシー号の関係について、受託事業者として今お考えになっているところは、どういうところがありますかというところを紙面で既に取り交わしておるような状況です。
- そういった意見も参考にしながら、今後、具体的にナッシー号の方向性でありますとか、どういう改善をしていくのかというところを踏まえまして、さらに踏み込んだヒアリングをまた事業者としていきたいと考えております。
- ３点目に、アンケート調査の関係です。
  こちらにつきましては後ほどアンケート調査の中間報告ということでお話をさせていただければと思っております。
- 市民アンケートにつきましては、既に昨年12月に実施をしております。

- 皆さんに郵送という形でいろいろ御意見を確認させていただきながら一応内容を決めまして、こちらのほうで少し予定よりは後ろにずれてしまった部分もあるのですが、既に市民アンケートという形では終了しているような状況でございます。
- 4点目の補助事業の関係ですが、12月に国のほうから御案内がございまして、申請をしているような状況でございます。
- 一応活用の方向で予算も考えているというような状況です。

【議長】

- 今の御質問に対して、まず1つ目、チャレンジングな考え方です。
- それについては、まだちょっと具体的にどうのこうのというのは、これからということではありますが、市民の皆様方の声を少しでも取り入れられるような、そういう方向性でいきたいという御回答でした。
- 2つ目が、ナッシー号についてということですが、これはもう若干スタートしていて、さらに踏み込んだ形での聞き取りというのでしょうか、ヒアリングというのをこれからやっていきたいということです。
- ３つ目のアンケートの過去のデータでございますとか協議会を、もし何もないのならば使ってはどうかということについては、これは後ほどまたということでしょうか。

【事務局】

- そうです。

【議長】

- 中間報告的なもの、令和６年12月から着手しておりますので、後ほどお答えをするということです。
- 最後は、国の補助事業はいかがかということでございますが、それについては考慮しているというコメントでございました。

【委員】

- 大変御丁寧に御答弁いただいてありがとうございました。
- 全て了解なのですが、アンケートについては、私も前回ここに出て、アンケート調査票も意見をいろいろ交わしてやったものが、この資料の７ページの市民アンケートを見ると、集計・分析・報告書作成ということになっているので、既に議論済みで、実施したということです。
- それを調査会社が決まったら、集計・分析・報告書作成ということですから、おっしゃるとおりなのですが、これから上位計画、市の概況、こうしたいろいろな課題が出て、その結果と既にやったアンケートの結果で、選定した調査会社のほうで、これだけだと計画策定にはもう少し必要なものがあるというのであれば、改めてアンケートをやることもやぶさかではないというふうには伺えたのですけれども、それでよければ結構です。
- あとの３点は全て理解しましたので、ありがとうございました。

【事務局】

- 御意見ありがとうございます。市民アンケートにつきましては、実はゼロベースで我々のほうも自分たちで、自前のほうでやりまして、非常に苦労した部分がございます。
- またアンケート調査を再びやるという部分については、時間的にどうなのかなという部分はありますが、コンサル会社と打ち合わせをしていく中で、もう少し分析が必要じゃないかという部分については、アンケートという形になるかは置いておいて、何らかの方法で確認する手段を考えてみたいというふうに思います。

【議長】

- ありがとうございます。おあといかがでございましょうか。

【委員】

- 何点かになるのですが、前回の協議会でいただいたスケジュールよりはもうちょっと深掘りされたスケジュールになっているので、いろいろ御検討いただいてありがとうございます。
- 段取り的によく理解できなかったのが、資料７ページのスケジュールを見ると、今のところ項番３の計画（案）の目次がほぼほぼできていて、それを８月から検討を始めるというふうに見えなくないところです。
- これを始めるに当たって、この目次案でいいかとか、準備をどう進めるかというのがあると思っていて、前回はアンケートに全て任せてしまうのは、いかがなものかというのもありましたので、今回ヒアリングをベースにということでお話を伺えたので、それがよくなったと思っています。
- ただ、前回の協議会でもいろいろ話題になった、そもそも交通網を充実するに当たって、何をメリットにして計画を進めていくかという点があまり見えてこないです。
- 今回、市のいろいろなポイントになる地域というか、設備とか、先ほど御説明にあったような内容で、どうやって交通網として形成していくかという段取りについて、ヒアリングの中では交通をする主体者と、サービスを受ける利用者の方に集中しているように見えます。
- もう少しヒアリングの幅というか、網羅率を上げていただいたほうが、その先の検討を進めるに当たって、よいと思っているので、そこの内容について、もう少し整理・検討いただくとありがたいかなと思っています。
- 例えばの話で具体論だけ言うと、今、交通の起点になるのはどうしても北総線になるので、北総線を中心に考えるとは思うのですが、北総線だけ見たときに、白井市の中の交通網がそれを担えるかというと、多分皆さん、自家用車をお使いになって北総線に乗りますと半分以上の方がおっしゃると思うので、そこで交通網を形成するというのは非常に難しい状態です。
- 近隣地域、ほかの地域の交通網との連携をどうするかとか、例えば新鎌ケ谷とか船橋との連携をどうするかというところを考えていくに当たって、このヒアリングだと、そこが抜け落ちる。

- あるいは、例えば西白井駅に限定して言うと、西白井駅の東口と西口と言うのか、北口、南口と言うのか分からないのですけれども、東側だけが充実していて、西側は誰も使っていない。ロータリーだけあります。
- あそこはバスも止まらないし、関連事業者とかが止まっているのだと思うのですけれども、それをどうやって切り分けていって、市としてこういうふうに使いましょうというようなアンケートではないけれども、提案ができるような検討とかが、この事業者とかを見ていく限りは出てこない気がします。
- そういったところで、今、例を幾つか話しましたけれども、もう少し交通を充実というか、サービスをよくするためという目的であれば、もう少しヒアリングの内容を見直しして充実する、注ぎ足していただけるとありがたいと思います。
- あと、今回の目的とはまた別になるのですが、バス事業者さんが今回替わったというのは語弊がありますけれども、京成バスホールディングスさんになっていると思うので、まずは京成バスホールディングスさんが入っていないというのは、入れていただくのが必然かなと思います。
- 今回、たまたま目的の中にある公共交通の再編というのが、実はバス会社で既に行われていますので、そこの連携というのは非常に気をつけて動かないと、計画と合ってこない可能性があるので、それは、今度は京成バスホールディングスさんの考えもあると思います。
- そこはヒアリングの中でも非常に重要なポイントだと思うので、ぜひ検討いただければとありがたいと思います。

【議長】

- ありがとうございました。大きくは２つでございました。そもそもの目的ですとか、今、委員から非常に御示唆に富んだ御意見、具体的な御意見を頂きました。我々の中では、そういう切り口があったかなというところもありましたので、後ほど回答をお願いいたします。
- あと、京成さんの再編のお話。お願いします。

【事務局】

- まず１点目ございました公共交通を考えていく上でのいろいろな環境という意味、広い意味でいろいろヒアリングをしていったほうがいいのではないかというお話が１つございました。
- 基礎調査の中で、関連計画であるとか、そういったものの整合性を図っていくということで、今、実は都市マスタープランとか、あとは他課にはなるのですが、各駅前の活性化というところで議論を進めている課がございます。
- そこの部分については、市の庁内関係課の中で、いろいろ整合性を図っていきたいというふうに考えております。
- どちらかというと、それは内部でのまちづくりとしての方向性の一環として、どういう形をしていくかという部分になろうかと思います。

- まず内部の中で協議を進めていく中で、状況によって、事業者とヒアリングが必要になる場合については、そこも考えていきたいというふうに考えております。
- 続いてもう１点、今、委員から御説明がありましたとおり、バスの名称変更ということで、こちら４月から正式には名称変更ということで、実はその他の部分で、今日バス会社さんのほうから御説明をいただくということを予定しております。
- 短い時間ではありますが。こちらの資料のほうについては、あくまでも現時点ということで考えておりますので、名称変更、組織の再編をした後については、それに伴って必要なところにヒアリングをしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【議長】

- ありがとうございました。今、委員の１つ目の御質問の中で、市の執行部、庁内関係セクションと連携しながら考えていきますというようなところでございましたが、市の執行部から何か、今のところこんなふうにしてやってみたいとか、そういうふうな考えなり何なりというのはありますか。特にはないですか。
- ２つ目の御質問ですけれども、最後にお時間を取って御説明したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

- 今の２つ目の質問のところで、京成バスホールディングスというのは11月１日にできています。
- 京成バスホールディングスの下に新会社ということで、４月１日からウエスト、セントラル、イースト、東京という４社体制になります。
- プラス京成バスというところがあるのですけれども。その中での京成バスホールディングスというところが統括をする形になるので、方向性、概念というものはホールディングスがつくると思います。
- そういったところの中から、ホールディングスにヒアリングをするのもいいかもしれませんけれども、白井市がどうこうというような概念というのは、あるかどうかはちょっと分からないかなというところかなと思います。

【委員】

- 具体的に、新京成バスが今回、営業所も鎌ケ谷がウエストになって、習志野がセントラルになりますね。
- レインボーバスはセントラルで、セントラル側で充実を図ると思うのですけれども、新京成が２つに分かれているので、西白井路線というのが新京成の西白井路線とレインボーバスの西白井路線が、我々としては統廃合されると困ります。
- 別会社だから別々ですと言われるのも困ります。

- そこは今回せっかく一緒になったのだから、レインボーバスのいいところと新京成バスのいいところを取り入れて。
- 多分しばらくの間は今までのダイヤで、今までの路線で走らせると思うのです。
- くっついてしまったら統廃合しますというふうになる。同じところを２台走ってもしょうがないと。

【委員】

- 今後どうなるかについてはまだ分かりませんけれども。

【委員】

- そうなったときに都市計画と合わせてサービスが落ちないようにやっていたくのは、ホールディングスさんかなと思いました。

【委員】

- 繰り返しになってしまいますけれども、概念をつくるのがホールディングスであります。

【委員】

- レインボーさんとセントラルさんで、けんかしてもらっても困ります。

【委員】

- けんかするつもりはないというか、それこそ新京成バスも２つになってしまいますし、けんかするつもりはありませんので。

【委員】

- 元新京成の方は多分被害者で、２つになってどうなるみたいな話ですよね。

【委員】

- 車庫で分かれてしまうので、私もびっくりしています。
- 仲違いはすることはないですけれども、くっついた協働というか、一緒になって効率的に運営していくものです。

【委員】

- そこが今回、再編をされるのがタイミングとして非常にいいタイミングで、そこでサービスと利便性と併せて見直しができればいいなと思います。
- それだったら再編しても、ダイヤの改編とか、路線改編とか、廃線をしても問題ないようにしていきたいということですね。

【委員】

- そうですね。ウエストとセントラルのところの橋渡しではないですけれども、そこの相互の意思疎通というところなのかなと思います。

【委員】

- たまたま西白井という地区だけを見ると、いびつなのです。
- レインボーバスの路線と新京成の路線と。しかも、新京成は１本しか走っていない。

【委員】

- あとナッシー号の受託はさせていただいておりますが、そのレベルでございます。

【委員】

- そこはうまく検討していただければいいなと思います。

【委員】

- 分かりました。

【議長】

- 興味深く伺っておりました。ありがとうございます。

【委員】

- 今、西白井駅のロータリーの件について、お話が出たので。
- 白井タクシーのお話ですが、西白井駅の方を白井タクシーでタクシーの運営させていただいているのですけれども、現在、北口のみ、マルエツ側のみ、乗り場をつけて稼働しています。
- 計画として南口のほうも、冨士側のほうも待機しようかという動きはしております。
- 印西警察さんと、市役所の道路課のほうにお話しして、南口のタクシー乗り場を整備してほしいというお話はしています。
- そこは予算の関係などもあるので、先送りになってしまうのかなというのはあるのですけれども、弊社としては南口のほうをつける予定ではあります。時期はまだ未定ですが。
- それに伴って、工業団地のほう、公民センター、今もうタクシー乗り場を開設させていただいています。
- 工業団地協議会の方とお話しして、公民センターの方ともお話しして、既に乗り場のほうを作らせていただいています。
- 中とか平塚とか河原子とか、あちらの方に少しでも早く伺えるようにということで整備させていただきました。
- まだ本格的に運営はしていないのですけれども、弊社として、そういう動きをさせていただいて、少しでも皆様のお役に立てればと思って動いていますので、御報告まで。

【議長】

- ありがとうございました。
- 次の議題に入りたいと思います。
  続きまして、資料で言いますと８ページでございましょうか。路線バスの減便廃止・計画策定に係る検討事項についてです。事務局から御説明をお願いします。

【事務局】

- 資料８ページをご覧ください。
  計画策定の中でも説明をさせていただきました、コミュニティバス「ナッシー号」の検証と改善及び多様な移動手段との相互関係や施策の検討についてです。

- 路線バスの減便や廃止の対応に繋がる部分もあるため、前回会議との継続性をもって説明をしたいと思います。
- 前回会議では路線バスの減便廃止に対する市の考え方として説明をさせていただきました。
- 各公共機関の役割と今後の方向性、連携・協働に係る検討、減便、廃止に係る今後の方向性と３点あげさせていただき、最終的な方向性としてコミュニティバスの見直しの検討について説明をさせていただきました。
- コミュニティバスにつきましては、交通空白地域の解消のため、市内を網羅的に走行させることを主眼に置き、４台のバスで４つのルートをシフトしながら運行しており、新たな各車両が複数のルートを効率的に走行しております。
- その中でコミュニティバスに求められているニーズは、路線バスの減便廃止の対応や目的地への速達性や運行本数の増など、様々な要望が寄せられております。
- これらのニーズに１つでも多くこたえていくには、コミュニティバスの対応だけでは限界があり、地域の実情に合わせ、多様な移動手段と相互の関係性を含め交通体系の検討が重要となってきていると感じています。
- このような状況の中で、現時点で考えられる検討のポイントを記載させていただきました。
- １点目が、現状で提供されている公共交通サービスの活用です。
  まずは、各公共交通機関の役割から、今ある公共交通サービスで対応することができないか検討することが重要です。
- ２点目に地域の実情に合わせた交通手段の見直しです。
  代替えとして、地域の実情にあった交通手段なのかを検討し、コミュニティバスやデマンド型交通などへのサービスの移行、併せて地域にある移動資源の活用などの検討も必要となってきます。
- ３点目に地域に適した新しい交通サービス・モビリティの活用です。
  これらのポイントを考慮しながら、交通体系等検討していく必要があると考えています。
- 市民、交通事業者、行政など、何を優先すべきなのか、色々な意味でバランスが求められるところだと感じております。
- 現段階ではみなさまに提供できる判断材料が少なく申し訳ありませんが、時間をかけて考えていく課題であると考えておりますので、現時点での各委員の立場でご意見を頂けたら幸いと存じます。よろしくお願いいたします。

【議長】

- ありがとうございました。ただいまの検討事項についてという御説明があったところでございます。
- こちらにつきましては、いろいろな御意見あろうかと思います。
- まず、こういう課題を扱うに当たって、板谷副会長からお話をお伺いできればと思います。

【副会長】

- 恐れ入ります。よろしくお願いいたします。
- １件、こういうものを入れたほうがいいのではないかと言って、事務局にお願いして入れていただいた件でもありますので、私から最初に趣旨をお伝えします。
- 路線バスの減便とか廃止というのが、昨年から全国各地で進んでいまして、白井市でそういうことが起きないということを前提にして計画をつくるのは、あまりよくないのではないかと思っていました。
- もちろん住民の立場、もちろん私自身もそうなのですけれども、今のネットワーク、それから本数はできるだけ維持していただきたいとは思っております。
- 民間事業者の採算性の問題もありますが、運転士が本当に極端に不足しているところですと、黒字でも減便というようなところもあるというお話を伺いますと、そういうことまで想定していかないといけないのではないかと思っています。
- 一方で、現状でそういう話が出ているわけではありませんし、現在のバスネットワークについては当面維持していただけるものと思っていますから、そうするとスケジュールの中でといいますか、計画の中でそれを明示的に入れ込むのは、どうだろうというところも感じました。
- 現状どういう感じなのかというのをきちんと把握した上で、今回検討課題として出していただいている交通手段の見直しや、様々な移動手段の活用とか、そういったものを計画の中に入れ込んでいただくことで、何かあったときに計画の中できちんと対応できるようにしていただけるといいのではないかというのが私の考えたところでございました。
- もう１つが、特に事業者の皆様には、プロとして毎日どのような形で運行していただいているか、どこからどこまで何人くらいの人が乗っているか、大体今、把握していただいていると思うのです。
- 仮に減便なり廃止といったようなことをせざるを得ないという状態になったときには、この席上でいきなりというよりは、どこかで一度、どんな状況なのか、何人くらいの方が乗っていただいているのかといったところについて、データを共有いただけるようお願いしたいです。最初は例えば事務局のほうにお伝えいただくのでもよいと思います。
- もちろんこの席上で出していただいて広く議論するということであってもいいのですけれども、いずれにしても、そういった情報を先に出していただけると、その後どうするかについて、みんなで考えるという形で対応策を練ることができるのはないかと思います。
- このあたりについての情報のご提供ないし共有といったところを、御無理のない範囲でお願いできると非常にありがたいというところでございます。

- これはバス事業者の皆様だけではなくて、タクシー事業者も含めて、例えば台数が減りますとか、あるいは時間的にこの時間帯は毎日いっぱいいっぱいで、なかなかお客さんを運ぶことが難しいとか、そういったところの情報共有についてもしていただけると、それを前提にして、次のネットワークを考えていくということがやりやすくなるのではないかと思います。
- そのあたりも含めて、少し問題点といいますか、そうしたことをしたいというのが、ここで１ページ取っていただいて、御説明いただいたというところでございました。
- こうした点を含めて計画に入れ込んでいただくと、今後、路線バス、あるいはナッシー号だけに頼る形ではなく、より幅広い交通手段を使えるような市になっていくというのも、未来の白井市の姿として、１つありなのかなと思っております。
- このあたりも含めて御検討いただけるとありがたいということでございます。

【議長】

- 副会長、ありがとうございました。
- 今の御意見、お話の中で、データの共有という、これはなかなかどうなのかなという気がしなくもないのですが、率直な。

【委員】

- 以前、白井市さんともデータの共有の話がありました。
- 前回の公共交通会議で、我々、昨年度から今年度にかけてですか、３事業者とも路線バス事業減便というところがございましたので、そういったところの中の説明をするのと同時に、利用動向というところがありました。
- 私の事業者はＩＣカードのタッチで全部取っています。
- なので、この停留所で何人乗って、この停留所で何人降りたというのは分かりますし、特定できない範囲というか、ＩＤｉという番号が入っているのですけれども、そういったところで追えることもできます。
- 個人を特定することが容易にできてしまいます。特にバスですと、毎日このバスで乗っていく人がいる。それが市民の人に全員公開されてしまうと、個人の行動が全部把握できてしまいます。
- このバスのバス停から８時のバスに１人乗って、どこで降りているというのが分かってしまうので、ものすごく、何といいますか気にしていただきたい。
- 個人情報という形になっていますし、それもＰＡＳＭＯの情報、Ｓｕｉｃａの情報という形になりますので、そことの連携というところもあるので、個人情報というところの絡みはしっかりと留意いただいた上でやる。
- 個人が特定できないように時間単位で区切るとか、バス停の名前を入れないとか、そういうようないろいろなフィルターをかけた上で、やるならやらないと駄目なのかなというのと、事業者の中でも設備を取る仕組みがないところがあったりします。

- 我々は船橋の補助金をもらいながらつけたのですが、動向分析システムというものがあります。
- しかしながら、ほかの事業者さんは、運賃箱の精算データを使うなど、そういった形で取るレベルが変わってきますので、そういったところもそろえた上で、情報収集するなら情報収集しないと平等ではない。
- 市民の人全員に公開することになると、本当に個人情報が公開されてしまうことになるので、そういったところを留意していただいた上で検討していただくことは可能だけれども、よく考えていただいて検討できればと思います。

【議長】

- そのあたり、例えばスマホのデータみたいなビッグデータみたいなものというのは、あったりするものですか。

【副会長】

- ありがとうございます。データの扱いは慎重にやっていく。それは当然です。
- 特に個人情報については、昨今、非常に神経質に扱わないと、本当にいろいろなものが外に出てしまいます。
- おっしゃっていただいたように１人、２人というような形で、時間帯と路線と、あるいは停留所等が全部分かるような形でデータを公開するという形は全く考えていないです。
- そういうのは、むしろ出さないほうがよくて、もしそういうものを御提供いただいて、何か計画を策定するために有効な手立てとするのであれば、それこそ事務局に御提供いただいて、それを非公開のところで見ながらネットワークづくりとなっていく、こういう形でよろしいかと思います。
- どちらかというと私が申し上げたかったのは、私は白井市民ではないのですが、市民目線で言いますと、いきなり減便だと、びっくりしますという、こういう話です。
- その前の段階で、この路線は１日にこれくらい乗っていましたとか、あるいは土日は特に御利用が少ないですとか、そういう特徴、要するに細かいデータを出して、それを報告するという形よりは、市民の皆さんに大体このくらい乗っていただいていて、ちょっと厳しいかもしれないとか、少しこの辺の時間帯については減便させていただくかもしれないみたいなことが伝わるように、データを少し丸めてといいますか、それで出していただけると、そうならないようにするために市として何かできることはないかとか、そういうことを事前に検討できるので、そのくらいでお願いしたいです。
- 市民目線だとそういうことで、一方でビジネスだと、なるべく出さないほうがいいという話になりますので、このあたりを少しこちらに寄せていただけると非常にありがたく、どちらかというと、お願いでございます。

【議長】

- ありがとうございました。事務局、どうですか。

【事務局】

- 委員がおっしゃったように、昨今の第１回目の会議のときに、利用人数の取扱いについては、いろいろ議論を交わさせていただきました。
- 市としては、なるべく現状を皆さんに把握していただきたいというところがございます。
- ただし、バス会社さんとしては、非常に神経質にならざるを得ないデータだということで、最終的には、そのデータを丸々使うことはしなかったというような状況がございます。
- 先ほど副会長さんがおっしゃられたように、非公開でその部分については議論を交わすなど、方法を考えながら、バス事業者様とも御相談させていただければと思っています。

【委員】

- 先生のお話、８ページによく書いていただけたと思っていますが、１つ、せっかく口頭で言われたことでメモに入っていないことがありまして。
- コミュニティバスには限界があると言われたので、そういうことを文章にしてちゃんと残す。
- 多分、批判は相当出てくるという覚悟の上で。
- ただ、そういう認識は共通認識にしておかないと、要求ばかり出てきて全部応えていったら、公共はいくらお金があっても足りないし、しかも、公共交通は民間が担っているので、民間も多分たまらないだろうと思います。
- そのときは限界性みたいなことをちゃんと言わないといけないのかなということで、どこかで、こういうメモのときには、市民に出すときも必ず入れて、ここは丁寧に説明をしていただければ非常にありがたいと思っているのが１点。
- もう１点は、地域に適した新しいサービスを考えるというのは、まさにそのとおりだろうと思います。
- というのは、いろいろなモビリティが最近出始めていまして、個人のモビリティも含めてです。
- この５年でどう変わるかというのは、ちょっと僕も分からない感じは持っています。
- ただ、５年で変わらなくても、多分10年後とか、自動化がどこまで行くか分かりませんが、相当変わってくるという気がしています。
- アメリカでも自動化は実は大変だというお話は聞いていますので、相当実験をやってビッグデータを使わないと、それも限界があるという話は聞いています。
- トラブルは相当起きるだろうけれども、少しずつでも進むというのは、日産の横浜の実験を含めて、はっきりしてきているので、これが公共交通にもかかってくるし、公共交通にだけ、しわ寄せがくるのではなく、個人的な交通手段によって解決してもらう。
- というのも、１つの僕は地域での公共交通手段のやり方だろうと思っているので、そういう意味では、地域の公共交通手段というふうに限定しないで、地域のお隣さんとも協働してとか、市民間の協働によってみたいな話も、ある意味では公共性と言えるのかどうかなかなか難しいのです。

- そういうのも入れて、まさに、はやりのせめて協働でもいいのですが、一言を入れて、10年後を目指して５年の中で考えていくというスタンスがないと、５年後の変更では、時代についていけなくなるのではないかというふうに思います。
- ぜひ調査の中でも、ちゃんと世の中は変わっているという目を広げたほうがいいのではないか。
- もう１点は、データですが、相当データは公に出てきています。
- 我々の地域のウォーカブルの調査のときで、民間のスマホの会社から、自転車や歩行者が、どこにどういうふうに何時頃動くのかというのは全部分かっていますので、そういうデータを使っていくという手はある。若干お金はかかりますが。
- ただ、民間のコンサルを選ぶのだとすれば、そういう手段を多分持っているのだろうと思うので、そういうところをちゃんと使っていくということが重要だろうというふうに思います。
- ここは繰り返しですが、実はデータというのは世の中、結構あるということを前提に、それをうまくどうやって活用していくのかということも考えないといけないというように思っています。

【議長】

- ありがとうございました。一言で言って、ビッグデータの扱いについて、来年度、コンサルさんにお願いしながらというような計画があるという中にあって、まだはっきりとはなかなか言えないでしょうけれども、今、事務局として、こんなことを考えていますというようなことがもしあれば。

【事務局】

- まだ皆さんにお話しできるレベルではないのかなと思っています。申し訳ございません。

【議長】

- 分かりました。
- ちょっと時間が長くなってまいりましたので、少し休憩を取りたいと思います。

〇１０分休憩

【議長】

- それでは、再開したいと思います。
- これまでの議論の中で、公の関わり方と言ったらいいのでしょうか。公共交通そのものの考え方、こういったところにも今、入り込んで議論が進んできているわけでございます。
- 日頃、地域の交通手段をお使いになられていらっしゃる市民の方々からの御意見も頂戴できたらと思います。

- 休憩の前までは、地域での公共交通のちょっと奥深いので、かなり根本的な議論に御指摘があったところですが、何かお感じになられたことでございますとか、もう少し解説してほしいとか、いろいろな御意見があるのではないかと思います。

【委員】

- 立場的には高齢者クラブですけれども、うちの道路の前にも走っているのですけれども、空車のときもあるし、本当に利用する人数はわずかなのです。
- ですから、ああいう大きい図体の車よりも、小さい車で間をこまめにというか。

【議長】

- そこの御指摘は、非常に重要だと思います。
- いろいろな限界と言ったらいいのでしょうか、無尽蔵にいろいろなもの、それは、お金も含めてですけれども、あるわけではないという。
- そこを避けて通ってはいけないというのが、例えばさっき５年、10年というスパンでしっかりと見据えていかなくてはならないのではないかという先生方の御指摘にもあったかと思います。
- そういうものをこれから、来年計画を立てるわけですけれども、目を背けてはいけない。そういうような御指摘だったのではないかと、私はそう感じております。
- この後ですけれども、新しいモビリティについての実証実験の御報告がございますので、そのあたりも御期待いただければと思っております。

【委員】

- １ついいですか、資料は多分、公開になってくると思うので、確認のためにお伺いさせてもらいたいです。
- ８ページですけれども、課題としては「コミュニティバス「ナッシー号」の検証」という書き出し枠でくくっています。
- 減便、廃止に係わる今後の方向性として、資料8ページ内の3個目のひし形黒四角で、減便、廃止に係わる今後の方向性、コミュニティバスの運行見直しの検討というのは、1個目のひし形黒四角のナッシー号と同じというふうに理解できます。
- その後の地域の実情に合わせた交通手段の見直しというのが、検討課題におけるポイントで、ここでは民間事業者による乗合バス、すなわち一般路線です。
- 普通のバス路線から、ここに書いてあるコミュニティバスというのは、ナッシー号なのか、新たにまたコミュニティバスをつくるということを考えて、今後、議論していくということです。
- 新ナッシー号ということはないのであれば、ないと言っていただいたほうがいいし、ここは曖昧でいくと、市民の方も、これだけ見ると期待される部分もあるので、そこは説明が必要です。

- もう１つは、もう一個上に検討課題のポイントで、現状で提供される公共交通サービスの活用という中で、御説明は伺ったとおりなのですけれども、先ほど私も言った網形成計画では、公共交通の乗り継ぎという部分で結節点というのは大事であるという話です。
- この白井市役所のところにも結節点があって、それから白井駅、工業団地の中にも結節点を作って、バス停の上に上屋を作りたいとか、そういうことも議論した時期がありました。
- 別に今ここで結節点を復活するということは言っていなくて、公共交通というのは、バスだけ語っていても、北総鉄道の白井駅で降りて、そこで円滑に乗り継ぎがバスにできるとか、夜だったらタクシーに乗れるとか、こうした乗り継ぎに関する内容というのも含まれると思います。
- ここで言う既存の公共交通サービスの活用というのは、そういうことも、乗り継ぎという部分があまり。
- 先ほどから電子の現在地の提供とか、そういう議論はあったのですが、乗り継ぎという観点も、既存の提供されている公共交通サービスの活用には含まれるのではないかと思われるのですけれども、ここは補足して御説明いただければありがたいということです。
- 最後のお話は、地域が有する公共交通以外の移動手段とあって、地域の実情に合わせた交通手段の見直しです。
- ここの中に、公共交通以外の移動手段とありまして、スクールバスとあるのです。
- 実はヒアリング先にも、市内の学校担当課は入っているが、いわゆる教育機関、ＰＴＡとか白井市内の学校関係者へのヒアリングというのが入っていないのです。
- ほかの福祉輸送とか病院、企業はヒアリング先にも入っているのですけれども、この辺はスクールバスについてかなり目当てがあるのであれば、お話を伺いたいです。
- 星印で、既存の公共交通と路線やダイヤが競合しないよう調整が必要というのがあって、実はこの星印は、もう一個上の民間バス路線で運行したサービスを変えるというのにも、この星印はかかります。
- 行が下に落ちているのですけれども、調整が必要という説明は、地域の実情に合わせた交通手段の見直し全体にかかる内容で私はいいと思うのですけれども、今の表現ですと、下の項目だけやればというふうに取れかねないので、御説明をいただければありがたい。

【議長】

- この資料の取扱いということで、少し慎重にという御指摘でございました。

【事務局】

- 御質問ありがとうございます。

  まず、この資料の全体的な意図なのですけれども、路線バスが減便、廃止になった場合ということを想定して、まずは作成した部分があるので、基本的には、交通手段が例えば全くなくなった場合に、どういう考え方が必要なのかというのを念頭に置いて作った資料でございます。

- なので、委員がおっしゃったような乗り継ぎという観点は、この時点では、申し訳ございませんが、抜け落ちていた部分があります。
- これはあくまでも、ここにある交通手段がなくなった場合の対応として、どういうことを考えていかなければいけないのかということを記載させていただいた資料となります。
- 既存の公共交通の路線やダイヤ等が競合しないよう調整が必要というのは、委員さんがおっしゃったように全体に関わってくる部分なので、この部分だけではないというふうに考えております。
- この調整は、非常に行政としても悩ましいという部分が正直ございまして、ぜひ交通事業者さんとして、どのような形で今後、本当にいろいろな提案を受けた場合、あるいは市はこうしたほうがいいのではないかという考えを交通事業者さんとどういう調整をしていったらいいのかというのは、正直、今後の課題であるというふうに自分自身も思っております。
- そこは交通事業者さんを含めて、いろいろやり方について、具体的な方法を検討していきたいと思っております。
- あと、スクールバスの関係ですが、スクールバスについては、市内、小中学校については、こちらの内部のほうで状況把握できるのですが、ほかの高校であるとか大学については、まずは実態調査という部分から入りたいなという部分がございますので、今回、具体的にどこの学校とヒアリングという形では記載していないような状況になります。
- そういった交通資源として、白井市内、どういったものがあるのかというのをまずは把握した中で、状況によっては、活用できるものであればヒアリング、その他の方法を考えていきたいというふうに考えております。以上です。

【議長】

- コミュニティバスの定義については。

【事務局】

- いろいろコミュニティバス「ナッシー号」と書いてあったり、コミュニティバスだけであったりしているのですが、ここは全てコミュニティバス「ナッシー号」、既存のバスということで、お考えいただければありがたいと思います。
- 今のところ新しいナッシー号という状況というのは、現時点では、こちらのほうとしても考えていないので、現状のナッシー号ということでお願いしたいと思います。

【議長】

- ありがとうございます。ほかに。

【委員】

- 船橋新京成バスでございますが、恐らく、地域の実情に合わせた交通手段の見直しという項目の１個目については、前回か前々回か、我々が西白井線の減便の御説明をさせていただいたときにお話しさせていただきました。

- あまり白井市内の路線バスについては採算が取れていないというところから来ているものだと私は思っております。
- レインボーさんも、そんなに儲かっているような感じではないと私は思っているのですが、ナッシー号も、乗務員に「正」の字を書かせて乗っている人数を数えているのですが、あまり乗られている方が多くないという状況です。
- なので、既存の公共交通と路線やダイヤ等が競合しないよう調整が必要というのは、していただきたいのですが、我々が民間では担えないというようなところをコミュニティバスやオンデマンドのバスのほうに替えるというような意味合いで書いていただいたのかなというような気がしています。
- 採算が厳しいのは確かで、特に白井市さんの路線は厳しいというところです。
- 人員不足もあるので、今、我々のところの中では、我々鎌ケ谷営業所は習志野営業所から人員を借りて運行しているような状況であり、毎日しのいでいるような状況になっていますので、なかなか苦しいのは変わらないです。
- なので、我々は今、頑張っているというような状況ですので、早急に検討はしていただきたいことは確かですので、よろしくお願いいたします。

【議長】

- 御意見ありがとうございました。今の御意見について、どうですか。

【事務局】

- 船橋新京成バスの状況については、以前からお話をいただいている状況なので、まず、ここをどうしていくかというところを事務局案と、あとは本当に皆さんの御意見をいろいろ伺いながら検討していかなければいけない部分だというふうに思っています。
- 地域の皆さんがお困りという状況もありますし、一方で、どの程度の人数の方が御利用なさるのかというところも考えていかなければならない部分だというふうに思っております。
- 先ほど副会長からもお話がありましたように、移動実態として何人御利用になるのか、あるいは地域としてどういう人数があるのかというところをもう少し整理してから対応を考えていかなければいけないのかなというふうには考えております。

【議長】

- ありがとうございます。なかなかシビアな御指摘、御意見がございました。
- 市民の方々、いかがでしょうか。

【委員】

- 素朴な疑問なのけれども、ナッシー号を走らせるということは、免許返納して交通手段ができない人と、いろいろな人たちがどこかへ出かけたいというときに利用しなければいけない。
- コミュニティバス「ナッシー号」というのは、私は最初からこの会議に出ているのですが、レインボーバスさんと船橋新京成バスさんもナッシー号ではなかったのでしょうか。
- 今、時刻表を提示しますけれども、これをひっくるめてナッシー号でしょう。違いますか。

- 時間どおりを走らせるのに、年間7,900万使っている。
- 素朴な疑問ですけれども、私は今80になりました。
- 足も不自由で免許も返納しており自転車も乗れません。あとはバスしか頼りがない。
- どうしても出かけたいのだけれども、誰もいない。
- 日中は独居老人ですから、息子たち、嫁さんたちが帰ってきてからしか出かけられない。
- そういうときには、お店も閉まっている。でも、どうしても必要だからといって頼りになるのが、このナッシー号だと思います。
- 皆さん、いろいろな話を６年聞いていますけれども、明後日、明々後日のほうを向いて議論していらっしゃる。
- 今、困っている我々のためのバスになっていないと思う。
- 誰も乗っていなくたって、空気が走っていたって、いいじゃないですか。
- その時間に合わせて我々は、このバスがあるから、このバスで行って、このバスで帰ってくれば帰ってこられるといって動いているのですから。
- 最初、新鎌ケ谷が行かなくなってから、バスの便が本当にこの４コース、随分増えました。だから動きやすくなっているのですけれども、このバスを走らせるのは、何のために走らせるか。
- 免許もない、自転車も乗れない、バイクも乗れない、車もない人たちのためのバスではなかったのでしょうか。私はそれを白井市に期待していました。
- でも、毎回毎回会議に出てきても、本当に我々の頭では理解ができない話合いになっている。弱者を放ったらかしておいて、便利のいいように、儲かるようにと走らせるバスであってはならないと私は思う。
- 我々80を過ぎたら分かります。自分が車に乗れない、走れないとなったら、やっぱり若い人の助けをもらわないと、できない。
- でも、こういうバスがあるおかげで、高齢者でも、ちょっと行ってみようかなという気持ちになる。
- このバスを減便だの廃止だのと誰が考えるのだろうと思う。年寄りは黙って家で死ぬまでいろという政策に私は聞こえます。
- もう少し市民のことを考えないと。足のない人のためのバスということを考えれば、7,900万くらい何ですか。
- ほかのところをもっと削れば、もっと充実すると思います。無駄が多過ぎる。
- だから、本当に困っている人のための市政でないと
- 私は、この町に来て50年になります。本当に便利になりましたので、この便利さを奪わないでほしいと切に思います。

【議長】

- 御意見ありがとうございました。ちょっとフォローしなければいけないのは、路線バスの減便とかのお話をしていたのです。
- 作り方も工夫しなければいけないかもしれませんけれども、ここでナッシー号の減便などを議論しているわけではないのです。

【委員】

- それなら白井が面倒を見てあげればいいじゃないですか。路線バスの白井を走る分だけは面倒見ますという。

【委員】

- その話をしているわけです。白井市が補助というか、援助してくれと
- 民間では厳しいという話をさせていただいているわけです。
- ナッシー号のほうは、コミュニティバスとして運行しているので、それなりのお金を頂いていますので、運行は全然大丈夫です。
- 民間でやっている路線バスの側の収支が厳しいというお話をさせていただいています。

【議長】

- そこがすみません、分かりにくいかもしれません。
- 本音の部分は語っていただいたので、それは理解しています。
- ただ、今の議論というのは、本当に民間のバス事業者さんが本音で語ってくださったことですので。

【委員】

- 勘違いの部分もあるのですけれども、おっしゃっていることは多分抜けている部分で、交通弱者に対してのどういうサポートをするかという視点がないのです。
- だから、いろいろ混乱されていると思うのです。そこはぜひ入れていただきたいと思います。

【議長】

- それは資料の作り方をこれから工夫しなければいけないと思います。
- それは当然、理解しています。ただ、直前で議論していたのは、そういうことではなかったということだけ御理解いただければと思います。

【事務局】

- 資料の作成の仕方が分かりにくく申し訳ございませんでした。
- コミュニティバス「ナッシー号」につきましては、船橋新京成バスと、ちばレインボーバスさんに委託をしているという形になりますので、普通の既存の路線バスも、船橋新京成バスさんと、ちばレインボーバスさんはあります。
- 片やナッシー号の委託事業者としての事業者でもあるということで御理解いただければと思います。

- あと１つは、もちろんコミュニティバスというところでの今後どうしたらいいかという改善、それも検討の１つとして必要だとは思うのですけれども、片や全く利用されていない状況というのもございますので、利用者が少ない期間、ところについては、もう少しほかのやり方もあるのではないかというところの議論をできれば、皆さんと一緒にできたらと。
- そういった意味では、まだ判断材料として、うちのほうが皆さんに資料として提示できていない部分があるので、次回までにその辺の整理をして、皆さんの意見を最初に聴取するとか、やり方を考えて、皆さんの意見を聴取させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

- 市へのお願いですが、〇〇さんは前から出てきて、今日、勇気をもって言っていただいて、とてもよかったのですが、こういう認識だということがあります。
- ということは、会議に出てきていない方は、もっとそういうことについて誤解して思っている可能性があります。
- 伝える手段というのは、とても行政にとって重要なので、ぜひ、そこは努力を。伝えたつもりだけれども、分かるということとは違いますから、分かるように伝えてあげるということはよく考えながら、御発言をお願いしたいと思います。
- 事業者さんはパッと分かってしまうと思うのですけれども。

【議長】

- 課長、部長、どうですか。

【事務局 都市計画課長】

- 御指摘ありがとうございます。今後、正確に伝わるように努めますので、よろしくお願いいたします。

【議長】

- バス事業者様からのお話が今、中心でございました。
- せっかくタクシー事業者様、鉄道の事業者様もおみえでございますので、何か別な視点といいましょうか、ございましたら、お話をお聞かせいただければ幸いでございますが、いかがでございましょうか。

【委員】

- 私は６年前までやらせていただいて、そのときもお伝えしたのですけれども、コミュニティバスも限界があります。その部分をタクシーのほうにぜひお任せいただきたい。
- 補助券なり、タクシーの乗務員の育成なり、そういうものを市のほうでやっていただきたいというのを６年前、私が来なくなる前にお話ししたことがあるのですけれども、そのあたりはどうなのでしょうか。

【事務局】

- そちらの乗務員の育成とか、その辺の状況については、申し訳ないのですが、現計画の中での位置づけというのは、特に今なされていないような状況というのが事実です。
- 本当にタクシー事業者さんというのは、路線バス、鉄道、あらゆる公共機関で補えないところもタクシー事業者さんにお願いしているという認識でございます。
- ただ、タクシー事業者さんの実態というのを市としてもまだまだ把握しきれていない部分が正直なところあるのかなという部分がございます。
- 今後、計画策定に当たって、ぜひ、その辺のいろいろな課題であるとか、今の状況というのをぜひ個別に確認をさせていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【議長】

- 板谷副会長、タクシーに関して、何か御助言がございましたら。

【副会長】

- 先ほどからの交通弱者に対する対応ですがナッシー号だけで解決できると私は思っていません。
- バスに乗りたくても乗れない方もいらっしゃると思います。
- 便数は、なるべく維持できるようにしていただいてはいるのですけれども、当然、走らない時間帯が出てきますし、あと、足腰が悪くなってきますと、家から出て停留所に行くまでが大変というのも結構あります。
- そうすると、バスも使えて、かつタクシーも例えば週何回か、月何回かであれば、一般的なタクシーよりも少し廉価に使えるような形にするということも検討したほうがよいと思っております。
- 他の市町村等の事例を見てみますと、いわゆるタクシーチケットと言われるものを高齢の方々、特に免許を返納された方、免許を持っておられない方については、何回か分、配布するというようなことを、地域を決めてやっています。
- あとは、いわゆるデマンド系の交通はいろいろ種類があるのですけれども、決められた場所に、予約をしておくと、その時間帯にタクシーの車両が来てくれて、そこから例えば駅とか病院とか決まったところまで、ワンコイン、500円で行けるとか、そういう取組をしている市町村も結構あります。
- 白井市はこのあたり、これまでニーズが十分顕在化していなかったというのもあると思うのですが、そこまで検討していないので、ぜひ今後、計画の中に入れ込んでしまうと大変なのです。
- 一方で、そういうニーズがどれくらいあるかといったところを含めて、調査、研究の上で、少し新しいサービスも検討してもらってもいいのではないかと思っています。

- そういうのもありまして、この中にはいろいろ可能性を書いていただけると、今後、市民の皆様にとって、より移動しやすい状況ができるのではないかと思っておりまして、このあたりも検討いただけるとありがたいと思います。

【委員】

- １ついいですか。白井タクシーさんは、免許返納したという証明書を見せると割引してもらえる。

【委員】

- そうですね。それは、うちの会社でやっているものです。

【委員】

- 白井タクシーさん独自でやっていらっしゃいます。

【委員】

- 印西市は、やっていないみたいです。

【委員】

- 免許返納したと言ったら、見せてもらえば割引しますよと言われた。
- そういうのをもっと広めれば、年寄りでも、どこでも出られるようになる。それに市の補助をしたって何の損があるのか。

【委員】

- 企業としてやっていると、１割引かせていただく、それで本当に精一杯なので、その上の部分を役所さんのほうで見ていただければというのはあります。

【委員】

- それをなぜ、市が補助をできないのかなと思います。
- 税金を取ることばかりではなく、取った税金をもっと市民がすごいと言うような使い方をしなければいけない。

【委員】

- 返納して何年間ですか。

【委員】

- 返納した返納書というのがありますので、それを見せていただければ。

【委員】

- 一生ですか。

【委員】

- そうです。

【委員】

- すごくいいことをやっていらっしゃる事業者がいるのだから、市役所はもっと考えないといけない。

【議長】

- 市の執行部、どうですか。

【委員】

- 今、交通の計画の上位計画という言葉が出てきていますけれども、上位計画の中の一番上で、総合計画というところの市全体のまちづくりというか、そういうところの計画を作成中です。
- その中で、今後、それぞれの市を住みやすくするためのいろいろな事業をこれから考えていく中で、既存のバスも当然、公共交通も大事なのです。
- 新たな公共交通ということも視野に入れながら、まちづくりを進めていく必要があるのではないかというところでいろいろと検討しているところになりますので、この後、グリーンスローモビリティの話があるそうですけれども、そういうものの説明もあります。
- そういうものも組み入れながら、よりよい交通形態は何なのかというのを担当課である都市計画課と併せて考えていければと思います。
- それと、先ほど、白井市としていろいろな周知が足りないというような話、情報の発信手段ですか、それが足りないというような話があります。
- これは昔からよく言われていることなので、とても痛い言葉なのですけれども、交通に限らず全ての情報発信について、もっともっと市は勉強して、皆様に確実な情報をいかに伝えられるかということ、それから有益な情報、今の白井タクシーさんのお話もそうですけれども、有益な話をいかに市民に還元できるかということも大事だと思っています。
- それは常に私どもだけではなく、職員全員、肝に銘じながら進めていきたいと思っております。
- うまく話ができているかどうか分かりませんが、そういうふうに思っています。

【議長】

- ありがとうございます。福祉サイドから何かお話はありませんか。

【委員】

- 障害福祉課、高齢者福祉課等で今、実施している福祉タクシー事業についてですが、白井タクシーさんにも大変お世話になっています。
- 今、予算審議中の段階ではございますが、そういった交通網は厳しい、なかなか乗る機会のない中で、少しでも外出していただけるようにというところで、福祉タクシー券の枚数を増やすなどの見直しを予定しています。
- また、外出支援サービスという安価過ぎるサービスがありましたが、３月末で終了するということに当たりまして、今お話しいたしました福祉タクシーの拡充ができたらということ。
- あとは、私どもの障害福祉課で持っている福祉カー、ゆうあい号というのですが、御自身でガソリン代を出していただいて、お車をお貸しするというものの台数を少し増やすということ。

- それを運転していただけるドライバーさんの講習会というところも視野に入れながら、少しずつではありますが、市民の方々に交通の便が厳しいということが少しでも減っていくように努力していきたいと思っております。
- 企画政策課長も話しましたように、部課長だけではなく、職員みんなで知恵を絞り合いながら進めてまいりたいというふうに思っております。

【議長】

- 何もやっていないわけではないのです。
- そこも１つ、市の発信力、発信の仕方、資料の作り方、まだまだ足りておりません。
- そこを自覚した上で、今後、事業を進めていきたい。そのように考えています。

【委員】

- 広報も、今年から月１回になってしまうのだから、各課の宣伝みたいな、この課はこういうことをやりましたとかというのを載せないといけない。
- くだらない、読まなくてもいいようなことも載せているけれども、そういうのではないのです。
- 関心は、市はどうやって皆さんが働いていらっしゃるかというのを、皆さん疑問を持って市役所を見ていると思います。
- だから、周りを見ていても、市役所に遊びに来て、お茶を飲んで、誰がどんな仕事をしているのかというのを見せるのも、いい案だと思う。
- コンビニがなくなって何年になる。あれだって、みんなの市民の場だったの。
- やっとウェルぷらっとに食堂ができたでしょう。あれも皆さん利用して、話の輪が広がるじゃない。
- なぜ、そういうことを考えないのか。素人の私たちでも、お茶を出して、みんなでお茶を飲んで、ああでもない、こうでもないということで、いい知恵が出ると思う。
- なぜそれをしないのかと思います。

【議長】

- ありがとうございました。お時間の関係もございまして、申し訳ありませんが次のテーマに行きたいと思っております。
- ９ページの公共交通に関する市民アンケート調査の中間報告についてということでございまして、事務局から御説明お願いいたします。

【事務局】

- 資料９ページの公共交通に関する市民アンケート調査の中間報告です。
- 市民アンケートについては、調査票の作成、各地区からの抽出作業、回答のＷＥＢ対応など、当初の予定より遅れての実施となりました。
- 集計作業はまだ終えてないことからも、実施及び回収の状況を中心に報告をさせていただきます。

- 今回アンケートで使用した調査票も資料として添付いたしましたので、併せてご確認ください。
- ① アンケート実施目的
  市民の日常の移動実態や公共交通の利用状況、公共交通に対する意見・要望等を調査することを目的としています。
- ② 調査対象
  白井市に住民票を有する１５歳以上を対象とし、都市マスタープランの地区区分（６地区）を基本とし、特定のエリアに意見の偏りがないよう配布数を算出し、無作為抽出により対象者を選定いたしました。
- ③ 調査期間
  令和６年１２月２０日（金）から令和７年１月２４日（金）を期間としました。
- ④ 回答方法
  紙面及びＷＥＢによるといたしました。
- 回収状況は、下段に票のとおりとなります。全体では ２３８０の配布数に対して、６５１通の回答があり、回収率は２７．４％となっています。
- また、個票の回答がＷＥＢの回答と併せて１２６６人の方に回答を頂いております。
- 参考までに前回計画策定時のアンケート回収率が36.3%ということで、8.9 ポイントのマイナスとなっています。
- １０ページに、回答者自身についての回答結果をまとめましたので、簡単に報告をさせていただきます。
- 回答者の半分以上56.6%が男性となっています。
- 年齢層で見ると、「75 歳以上」が28.0%と最も多く、次いで「50 歳以上」が17.3%を占めており、このことから、65 歳以上の年齢が概ね半数を占めています。
- 職業を見ると、回答者の年齢が高いことから「無職（年金生活含む）」が34.2%と最も多い状況となっています。
- 運転免許証の保有について、「持っている」と回答する方が最も多く、77.9%と半分以上を占めています。
- 運転免許証の返納について、「考えていない」と回答する方が76.2%を占めています
- 運転免許証の返納予定時期について、「80 歳頃」と回答する方が35.2%と最も多く、次いで「85 歳頃」が25.4%となっています。
- 自動車の保有及び使用状況については、「ご自身の自動車がある」と回答する方が59.6%と半分以上を占めています。
- 以上が公共交通に関する市民アンケートの中間報告となります。集計がおわりましたら、分析と併せて改めて報告をさせていただきます。

- 次に昨年１０月に開催されたふるさとまつりの際、ナッシー号とバスロケーションシステムの利用啓発と併せて、市外の来場者も多いことから、簡易的なアンケートを実施しましたので、併せて報告をさせていただきます。
- ６５人の方に回答いただき、半数以上が市外の方でした。
- 年齢別にみると、２０歳代から４０歳代の比較的若い世代の方が半分以上を占めています。
- 普段の生活における移動環境に満足していますかの質問に対しては、「満足」と「やや満足」と回答する人が半数以上となり、マイカーでの移動を中心とする、若い世代の意見が色濃く反映する結果となりました。
- ナッシー号の利用については、４６％の方が利用しており、コミュニティバスの要望で一番多かったのは、運行本数を増やしてほしいとの意見でした。
  その他の意見については、資料の記載のとおりとなりますので、ご確認ください。
- アンケート調査による説明は以上となります。

【議長】

- ただいまのアンケート調査の中間報告につきまして、御不明な点や、確認したい点はございますか。

【委員】

- ９ページの地図の下に表がありまして、項目という太字の字があって、右側に世帯、個票とある中で、クエスタント回答者のクエスタントという意味は、凡例にもないようなので、カタカナでクエスタントとあるので、ここはどういう意味なのかは補足していただきたいです。
- また、項目の下に、ナッシー号利用者に30枚配布しているとあります。
- 米印で、ナッシー号利用者については、白井市役所を発着する各ルートに配布したものと。
- 30枚配布して、回収数が書いていないのですけれども、回収数は、上の校区ごとの中に含まれるのか、それとも、この30人はちょっと少ないと思うのですが、協力してくれなかったのかお伺いできれば。

【事務局】

- 御質問等ありがとうございます。クエスタントについてなのですけれども、こちら申し訳ございません。説明不足となっておりました。
- ウェブの回答のもので、ツール名がクエスタントというものになりますので、こちらのクエスタント回答数が、そのままウェブの回答数ということで読んでいただければ問題ございません。

【委員】

- ウェブの回答数という言葉自身が分からない方がいらっしゃると思いますので、しっかり説明してあげてください。

【事務局】

- 申し訳ございません。回答として、紙での回答のほかにインターネットによる回答方法となります。
- パソコンやスマートフォンを使用して回答された方のところがクエスタント回答数ということになりますので、そちらが全体で236人ということになっております。
- また、ナッシー号の利用者の回答数ですけれども、こちらは個別に集計したということはなくて、それぞれ１地区から６地区の中に回答していただいた方が入っているということになりますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

- あと１点は、今回、調査票は世帯ごとに送付し、４人まで回答可能というのが四角のところにあります。
- ここの配布数と回収数、例えば一番上だと配布数290の回収69とあるのですけれども、４人まで回答できるというのが私は画期的ではないかと思います。
- この辺は、この表の中でどういうふうに見れば、１世帯でどのくらい出たというのが分かるようになっているのですか。

【事務局】

- 御質問ありがとうございます。基本的には、回収世帯数の651世帯に対して、個票で見ると合計1,266名の方から回答があったということになるので、合計人数を651世帯で割っていただくと家族の平均回答人数という形になります。

【委員】

- 分かりました。ありがとうございました。

【議長】

- ありがとうございました。おあとございましょうか。

【委員】

- お礼とお願いですが、とても面白いデータですが、ここからが問題なのですが、これをどう読むかです。
- これをもって行政の方は、どのような感想を持ったのか。
- 67歳になると、みんな免許返納してくれないのかと、こう思ったかどうかというのが政策を考えるときに重要です。
- 次回、詳細にやるときには、どういうことをこれで感じて、どういう政策を打たないといけない。
- 政策まではやり過ぎかもしれないが、どういう課題があるかということをちゃんとお願いしたいなというふうに思うのが１点。
- アンケートを無駄にしないでくださいというのが１点。

- もう1点あります。僕は、ほかでアンケートをやるときには、回答した方に読んでもらい、議論してもらうということを必ずやります。
- あなたは本当に75歳で返納してくれるのですか、あなたは85歳で本当に返納してくれるのですかというのを、こういう直接的な質問はないかもしれないが、議論を回答した人に、思いとしてはそう思ったけれども、実際は難しいというようなことを回答してくれるのか、みんなで、家族で相談して、85になったら返さないといけないよねと思っているのかというのを回答した人に議論してもらうというのがとても大事です。
- 実は議論していくと、本当はそう思っていなかったというのも結構、僕は経験としていっぱい感じています。
- 可能であれば、これからもアンケート調査は多々あると思うのですが、回答した人に議論をしてもらうという機会を、若干お金はかかるのですが、設けたらどうかという、これはお願いです。
- 繰り返しますが、アンケートをやって、これはなかなか参考になる、なかなかいいアンケートをしていただいて、ありがとうございました。

【事務局】

- 本当におっしゃるとおりだと思います。我々、実はここまで出すのに、一枚一枚、ツールがほとんど古典的で、Ｅｘｃｅｌのツールにいろいろ打ちながら作業をして、ここまでやるのにも、かなり時間を正直要したというところです。
- この後には、自由記載欄でいろいろ書かれている部分とか、いろいろ思いをつづられている部分というのがかなりありますので、そういうところを含めまして、ぜひ委員がおっしゃられたように、それを使ってどう反映させていくのかというのを、そこを皆さんにお示ししていく中で検討させていただければと思っております。
- それとあと、２点目の議論ということにつきましては、意見交換会の際に各地区のアンケートの回答というものをワークショップ等々でも生かしながら、皆さんの意見聴取ができればというふうに考えておりますので、そういったところで少し活用させていただければと考えております。

【議長】

- ありがとうございます。まず議題の１ということでございまして、地域公共交通計画の見直しについて、こちらについて議論をしてまいりました。
- 前半部分でかなり時間を使ってしまいましたが、相当、本音もお聞きできたような気がしております。
- 頂いた御意見につきましては、しっかり今後の作業の中で反映しながら進めてまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

【議長】

- 次の議題でございます。その他という枠になりますが、本日、市民団体の「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」という方々にお越しいただきました。
- 取り扱っていただくテーマでございますが、グリーンスローモビリティということについての御説明になります。
- 先ほど、内容に触れるような議論もあったところです。
- 今後の交通計画、交通体系を考えていく上で、地域の方々が運行するという新しい考え方、新しいモビリティの考え方、これは地域の実情にも沿った新しい公共交通、新しい交通の１つの形態ということで、非常に私自身、興味深く感じているテーマでございます。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」会員】

- はじめまして。市民団体「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」という会の田中と申します。
- ここにいる車いすの田中晴美が代表をしていまして、この人が大学のほうでユニバーサルデザインの研究をやっております。
- その中でユニバーサルデザインの車両を新しいものに何とかならないかということをずっと研究していまして、今回、それを白井市のほうで利用できないかということで、実証実験を提案させていただきたいと思って今回持ってまいりました。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」代表】

- 本日は、しろい市地域公共交通活性化協議会で提案の場を作っていただき、誠にありがとうございます。
- 私は、本当に住みやすいしろいを本当にする会代表の、田中晴美と申します。
- 会の名前の通り、私たちは、地域の交通問題を中心に、白井市の経済の発展と、快活な市民生活の実現を考えています。
- 私自身、移動困難当事者として身をもって交通課題解決の重要性を実感しており、活動しています。
- この場をお借りしまして、白井市グリーンスローユニバーサルデザインモビリティの、実証実験をご提案させていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。
- 始めに、実証実験の目的は、車椅子ユーザーや高齢者、ベビーカーを使う方など、移動が難しい人も安心して利用できる、ユニバーサルデザインに対応した、環境に優しい、グリーンスローモビリティを運行することによって、その効果や課題、改善方法を検証することです。
- 次にその前段として、白井市の交通課題背景からお話しいたします。
- 近年では、交通事故の全体件数が減少する中、高齢者ドライバーによる事故の割合が増加し続けています。
- 死亡事故につながるケースも多く、高齢者による交通事故を防ぐ必要性が、高まっているといえるでしょう。

- 自家用車の代替手段がなければ、運転免許証は手放せません。安全な移動手段の確保は、喫緊の課題と捉えています。
- SDGｓの観点から捉えると、交通問題は、目標１１、住み続けられるまちづくりのターゲット２に該当します。
- 包摂的で安全かつ、強靭で持続可能な都市、及び人間居住を実現するためには、すべての人々に、安全かつ安価で、容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供すると、掲げています。
- あらゆる人の移動する自由は、人間の本来的欲求であり、生活や社会参加の基本です。
- しかしながら、加齢や病気、ケガ、ライフスタイルの変化などの理由による、移動の不便さは仕方がないのでしょうか。
- 近年は、障害は社会にあるという社会モデル的な考え方が一般的になりつつあります。
- そして、生活環境の不便さには、物理的移動困難、社会環境や心理的な移動困難、制度的移動困難の3つのバリアがあります。
- そして、この3つのバリアにより、特に、移動に困難さを抱える車いすユーザーの状況について、次にご説明いたします。
- これは、自身が2021年に行なった、「公共交通利用者調査」で、目的別・外出アンケート結果です。車椅子ユーザーの回答を、赤枠で囲っています。車いすユーザーは、健常者、車いす以外の障がい者と比較し、外出頻度が少なく、なかでも外出が「ほとんどない」人が集中している状況が、ご確認いただけると思います。
- 次に、白井市の交通課題について述べさせていただきます。
- 近隣の幹線道路には大型店舗が立ちならんでいますが、駅と地域をつなぐバスの減びん、地域と公共施設や、商業施設をつなぐ交通手段の欠如が挙げられます。そのため車が手放せず、高齢者ドライバーによる交通事故につながります。
- また、移動困難者の孤立が現実問題となっており、2020年からの感染症拡大や、いわゆる2024年問題が追い打ちをかけ、商店街の閉鎖・人口流出・空き家の増加と、悪循環のスパイラルに陥ってはいないでしょうか。
- そのスパイラルを断ち切り、人や物の移動の円滑化、好循環へと切り替えることが重要です。
- 地域公共交通は街の「血液」。提案の実証実験は、血液を流す血管の再生・補強へつなげる取り組みだと考えます。
- 白井市の人口は、１９７９年、千葉ニュータウンの街びらきを境に、一斉流入し、爆発的に人口が急増しました。
- その約40年を経て、２０２０年をピークに減少に転じ、今後加速的に高齢化が進むと見込まれます。
- 性別、年齢別の近年の人口移動の特徴として、１０代後半から２０代までの顕著な他市への流出がみられます。

- 市内に高校が１校のみ、大学がなく、就職できる企業が少ないことによるものと推測できます。
- 白井市の交通問題は、北総鉄道は通学定期を値下げしましたが、まだ運賃は高いままです。また、駅から住宅地までのバスの減便で、通勤時間帯に運行を取りやめた地区もありますし、コミュニティバスの非利便性・複雑化、車いすユーザー等へのタクシーの乗車拒否などがあります。
- 移動困難者にとって日常生活で使える公共交通は、ほとんどありません。
- 特に車いすユーザーにとっては車両の構造に課題があることから、これは白井市に限ったことではありませんが、ユニバーサルデザインモビリティの導入が、喫緊の課題です。
- 以上の課題を踏まえながら、私は、東京都市大学院後期博士課程で、車いす使用者の移送、及び物流も可能な、オールドニュータウン等で活用する、UDモビリティの研究に取り組み、４年になります。
- こちらは、当研究で考案したUDモビリティです。
- 一般、障がい者、介助者、行政、タクシー事業者等、各方面へ調査を行い、車両のイメージ図を作成いたしました。車いすユーザー、ベビーカー、歩行困難な高齢者が乗りやすいように、床面を低くフラットにし、車いすユーザーや介助者が対面で座ることも可能とし、安心安全な居住空間を設計しました。
- 規格設計は、通常は運転席、前席２名、後部席３名の６名とし。車椅子での乗車２台乗車可能と想定し、その場合、通常座席２名、そして運転手を入れて５人乗りの仕様となります。助手席は貨物車載スペースとなります。
- 詳細仕様と模型画像になります。
- その主な新規性は、環境配慮のエネルギー、側面と後部にエントランスがあること、ウォークスルーができること、介助し易い対面座席が可能であること、ラゲージスペースは貨客混載が可能であることなどです。
- 本研究のモデル車両と類似の実車がありました。
- タジマモーター株式会社の、グリーンスローモビリティです。EV、インホイールモーターの、もともと低床フラットな車両に、研究として「内装のUD化」の改造を施し、その上で実証実験に臨みたいと考えています。
- さて、改めて実証実験の内容をご説明いたします。今回のターゲットは２点です。
- ひとつは通勤時間帯に減便されたバスの補填としてグリスロで駅まで直行します。
- もうひとつは地域内を細かく回って高齢者、障がい者、子どもたちを行きたい場所への移送です。出来ればデマンド方式も検討できればと考えます。
- 主な連携主体は、白井市、東京都市大学、株式会社タジマモーターコーポレーション、当会等を見込んでおります。
- 実施期間は、一ヶ月程度からと今のところ検討しています。

- 対象地区は、バスの便が少なく、徒歩圏内に商店や医療機関が少ない、高齢化の進んだ地区を想定しております。
- 白井市で今後想定される各モビリティの役割について見てみましょう。
- 国土交通省が令和3年に発行した、グリーンスローモビリティの 導入と活用のための手引き、からの引用ですが、その特徴を上手く分担することで、移動ネットワークが成り立つ、と言うことです。
- 私たちが考える、白井市での各モビリティの役割図です。次の表で一覧にしました。
- モビリティの役割の比較になります。
- グリスロは低速低床を活かして、ドライバーも普通運転免許で運転可能で、地域の身近な乗り物として子どもから高齢者、移動困難者も同じく共に利用しやすいモビリティになろうかと考えます。
- このように、それぞれのモビリティの特徴を生かした役割分担が可能となります。
- そのほかにも次の利用効果があります。
- 実証実験から運用を目指す効果として、このような10項目以上の市民のウエルビーイングがあげられます。
- ウエルビーイングは、交通弱者への福祉的支援だけではなく、交通事業所の人材不足の解消や、誰もが利用できる、市の安心安全な交通インフラを目指し、市民の行きたいところに行ける、利便性を図り、生活の質を高めることがあげられます。
- また、差別感のない交通環境は、移動活力となり、交通弱者の社会参加など、生活変容をもたらす効果が期待できます。
- 見込まれる実施に係る費用は、次のようなものが考えられます。現在、車輌賃借料は輸送費別途で、おおよそ半月で５０万円とのことです。なお、事業所の会長のご厚意により、今回は協力したいので、予算に応じて対応とのことです。
- また、EVスタンド等のインフラについては今後検討したいと考えます。
- 改装費用については、UDの研究のための実証実験であるため、市は通さず、大学の研究費や、団体の研究資金の公募等や、私費で工面いたします。
- グリーンスロー　ユニバーサルデザインモビリティを導入した場合の、好循環ストーリーを、４コマ漫画風にまとめました。
- 誰もが移動できる街は、人の往来が盛んになります。人との交流や社会活動ができて、ものの購買意欲や観光も気軽にできます。つまり、経済が潤い、街が豊かになる可能性があります。
- 行政や、交通事業者、わたしたち市民がもっと移動の自由について考えて、誰もが豊かな生活を送ることが出来ることを、切に願います。

- 最後に現在、人口減少、人材不足等で課題を多く抱える交通政策ですが、市民も含めて各分野の役割を活かし、支え合う協働、連携することで市民のウエルビーイングがはかれることを願い、この提案をいたします。
- 御清聴、感謝申し上げます。

【議長】

- 田中様、ありがとうございました。
- 今、御覧いただいたスライドは、御紹介が遅くなって申し訳ありません。お手元にカラー印刷で資料を配付させていただいております。
- ちょっと見にくいのですけれども、右下のほうにページ番号も振ってありますので、少し補足されたいような点がございましたら、お願いしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」会員】

- さっき動画はちょっとあったのですけれども、今回対象としているグリーンスローモビリティというのは、タジマモーターのほうで開発している車両で、最新のものになります。
- 松戸で今やっていますけれども、あれがＮａｏ１です。
- 今回、この間、タジマモーターさんの静岡のほうに行って乗ってきたのですけれども、これは新しい車両で、インホイルモーターを使ったやつのために、床面が大分低くなっています。
- なので、床面の高さが、ナッシー号だと310ミリに対して、このグリーンスローは250ミリなのです。だから、スロープが緩くなって、車いすがスッと乗れるということになるのです。お年寄りの方も、低いので乗りやすいです。
- 時速20キロくらいで走るものですから、住宅地街を回れるというような特徴があります。
- それを利用して、ナッシー号とか路線バスとかがありますけれども、それとはまた別の細かいところを走るという、資料でいきますと15ページのところに、モビリティの比較というのを、右下の番号で15ページです。
- それぞれに特徴があって、得意分野というのはあると思うので、それを組み合わせることで、恐らく住宅地街は、うちのグリーンスローを使って走りつつ、長い距離は路線バスなり、コミュニティバス「ナッシー号」なり、そういうものでやっていけば、結構うまく使えるのではないかということです。
- ゆっくり走ることで、車内のコミュニティみたいな感じ、移動するコミュニティというような活用もできると思います。
- この車の上に青いランプをつけて、松戸市のほうでも、たしかそんなことをやっていたと思うのですけれども、そういうもので走らせることで防犯効果が結構あるでしょうと。タジマモーターの会長さんも、そんなことは言っておりました。
- そういうことで、これを導入していくことで、先ほどバスの代わりになるものはないかというお話、それの１つになるのではないかと思って提案させていただいております。

- 今回、実証実験という形は、どこか特定の１つの地域だけ使って、具体的にまだ詰め切れているわけではなくて、ついこの間、市のほうにも提案させていただいたばかりですから、これから費用をどうするだとか、いろいろな具体的な対応、どういうふうにやっていくかという計画とか、ここで御承認いただければ、もっと具体的に詰めていきたいと思っています。
- 移動弱者の方に、この実証実験の中で乗ってもらって、どうなのでしょうという意見をいろいろもらいたいです。
- それは、あくまでこの人の研究でもあり、またそれが白井市の交通問題のほうにも解決の糸口になるのではないかというふうな形で考えております。時期的なものは、これから詰めていきたいと思いますが、ぜひ御検討よろしくお願いいたします。

【議長】

- 御説明ありがとうございました。では、何か聞きたいこととでもいいましょうか、御質問等ございましたら、お寄せいただければと思います。資料のページ番号を一緒にお伝えしていただければ幸いでございます。いかがでございましょうか。

【委員】

- 大変おもしろい提案で、しかも、すごいのが、市民からこういう提案が出てきたというのは、すばらしいというふうに思います。ぜひ成功させていただければ。
- 僕は実は八王子市で、自治会と組んでグリーンスローモビリティをやったことがありまして、準備が結構、警察との協議とか大変です。
- 今、そこのやった自治会では、自治会が持っている軽自動車を使って同じような取組を、残念ながら軽自動車なのですが、八王子市が金銭的に応援してくれるということなので、自治会の方が運転手になって、幾らかお礼を出していますが、実際やっています。
- 課題は出てきて、介護が必要な方が出かけると、介護者の付き添いが必要であるとか、法的な対応などいっぱい課題が出てきます。
- 逆にいけば、社会実験的にやれば、その課題が多分いっぱい出てくるのではないかと思っているので。警察との協議が一番大変だったという教訓を持っているので、準備が相当かかるとは思うのですが、市も協力をしてくれるはずです。
- ぜひ資金の提供を含めて、これは市民的にやると、僕はすごくいい運動になっていくのではないかと。多分、社協さんも応援してくれるのではないかと僕は思っているので、ぜひ成功させていただければと思っています。

【議長】

- ありがとうございました。今、市に対して要望があったようですけれども、どうでしょうか。

【事務局】

- ありがとうございます。市としましても、今回の取組、御提案いただいた中で、我々としても、いろいろな手法について検証は必要だというところで協力はしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

【議長】

- 資料でいきますと17ページあたりになるのでしょうか。例えば充電設備とかというのも、今、市役所の周りには全然ないです。

【委員】

- 準備は大変ですけれども。

【議長】

- ただ、かなりやる価値はあるのではないかと、私個人としては思っています。

【委員】

- 事業者さんの協力というか、了解も必要なので、かぶらないようにするとか、この辺も多分、市が入っていただかないと、うまく調整はできないのではないかと思うので。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」会員】

- その辺、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

【事務局】

- おっしゃっていただいたように、市民の方からこういう御提案をいただいて、次期計画にも、ある程度合致しているという状況がございます。
- あとは大学、市、団体の皆さんということで、それぞれ役割をいろいろ検討しながら、実施に向けてぜひ協力させていただければというふうに考えておりますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

【副会長】

- 大変興味深い実証実験の御提案ありがとうございました。ぜひ、やっていただきたいと思います。
- 気をつけるべきことについては、既に御指摘いただいたので、あまりないのですが、地域の選び方とルートについて一言だけ。
- たくさん乗っていただかないと、実証実験としていいものにならないと思いますが、ルートをあまり長くし過ぎると、利用しにくくなってしまいます。
- あとは場所です。多くの人が行きたいと思える行先をルートの中にいくつか入れていただくとよいと思います。さらに、御利用されそうな方が多く住んでいらっしゃるところで運行するとよいと思いますので、そのあたりにお気をつけになりながら、調整を進めていただけるといいと思います。ぜひ、よろしくお願いいたします。

【議長】

- ありがとうございます。市民の皆様、どうでしょうか。
- グリーンスローモビリティ、何か御意見、御感想でも構いません。

【委員】

- 普通車で乗合の自動車を運用しましょうかというアイデアは、確かに自治体というか、自治会のほうからもあります。

- 具体的にどうするのかという話になると、そこで今、止まっています。だから、自治会の枠組みというよりは、人と物と金の、人は自治会で出すけれども、物と金はどうするかとか、そこら辺をもう少し整理していただくと、１つ軌道に乗るのかなという気はしなくはないです。
- アイデアとしては実際出ているので。乗合はどうしましょうみたいな形では、実際には、ある自治会から具体的に出ているので、もう少し具体化してくると、話はしやすいかもしれないです。

【委員】

- 車両を持っている自治会はないですか。

【委員】

- 車両はないです。結局、自宅に置いているのが使えるでしょうというアイデアでしか今はないです。
- ちょっと出かけるときに、一緒に乗れるような仕組みをつくろうみたいな話は、確かにアイデアとしては出ています。

【議長】

- 委員のお話を伺って、まさに実証実験なのだな、それを迎えるのだなという、そんな気がいたします。
- 事務局、どうですか。

【事務局】

- 今、委員の自治会での取組ということも、私どもが伺っていない部分もあったので、これから市民活動であるとか、あるいは、そういう自治会の取組ということも、本当に地域の方々と連携しながら、みんなで考えていくということが必要だと思います。
- ぜひ、その辺は情報収集という部分でも、もうちょっと輪を広げて取組を種々していきたいと思いますので、引き続き何かいろいろ情報がありましたら、ぜひ、お寄せいただきたいと思いました。

【議長】

- 交通事業者の皆様方から、何かアドバイスや感想はございますか。

【委員】

- おこがましいのですが、チャレンジすることはいいことですので、ものすごく調整が大変だと思いますが、我々、人を出すのは、なかなか難しいかもしれませんが、乗務員不足だと言っているのに、なかなかやりくりはできないかもしれませんが。
- あと交通状況、20キロくらいしか出ないので、交通の障害にならないか。
- あとは、通勤時間帯にというのであれば、自家用車で送迎される方が結構いらっしゃるので、何人乗れるかというところの中で、通勤に使えるのかどうかというところも含めながら、深掘りしていっていただければと思います。

- チャレンジすることはいいことだと思いますので、応援しております。よろしくお願いいたします。

【委員】

- バス停をどうするかと、どこのルートなのかというのは結構重要です。
- 今言われたように、バンバン60キロで、50キロで走っているところを通すというのは、相当警察がやめてくれと言いますよ。

【委員】

- 無理ですし、我々運転しているほうも大変なので。

【委員】

- 結構そういう調整が。だから市が入らないと、これはうまく調整がつかないのではないかと思います。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」会員】

- 今のお話は、私もすごくルートというか、バスの代替えみたいなことを言うと、どうしても、住宅地を縫って走っていって、一部どうしても検討に入れなければいけないところも出てきたりします。
- そこをどうしようかというのは、この間からも実は考えていたりするのですけれども、20キロなので。運転手も、まだめどははっきり分からないのですけれども、こちらの大学の先生からも、出してくれそうなところがありそうなことも聞くなど、その辺はこれからの細かい詰めの中で進めていきたいと思っています。
- まだ具体的にどこでというのも、頭の中ではあるのですけれども。この辺を使ってみたいとか。主体がどこになるという話も、これから調整しながら、市の方と調整しながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【委員】

- よかったら、僕がやったところのレポートが、たしかあるはずなので見つかったらお渡しします。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」会員】

- ぜひ、そういうものも参考になると思うので。特に問題点、どういうところに課題があるかというところを教えていただけると、大変助かると思います。
- ぜひ、よろしくお願いいたします。

【「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」代表】

- やはり人を乗せるということは、命を乗せることなので、市と協議して慎重にやりたいと思っています。

【議長】

- それでは「ほんとうに住みやすい白井を本当にする会」の皆様方、ありがとうございました。

- 市としても、今後、課題整理をいたしまして、実証実験に向けましたいろいろな協議でございましょうか、検討してまいりたいと考えております。
- それでは、議題になかった部分ではありますけれども、配付した資料につきまして、御説明をお願いいたします。

【委員】

- 委員のほうからお話が出た内容の点でございますけれども、こちら京成バスグループです。
- こちらのほうの会社が再編されるということで、今年の４月１日から、それに伴いまして社名が変更になりますという、そちらの御説明になります。
- こちら実際に発表になったのが昨年の９月25日なのですけれども、こちらで発表されて、ステークホルダー様向けには既に発表はしていたのですが、11月１日に親会社であります京成電鉄におきまして、バス事業会社の経営管理会社であります京成電鉄バスホールディングス株式会社というのを設立いたしました。
- これに伴いまして、こちら京成バスのグループですが、京成バス、まず今年の４月からは、京成バス株式会社を除く現在の京成の分社会社です。
- それと船橋新京成バス、松戸新京成バス株式会社、こちら合わせて15社、これを再編するということで、四つのバス会社に統合することになります。
- 私ども、ちばレインボーバスは、私どもの会社を存続会社といたしまして、船橋新京成バスの習志野営業所と千葉海浜交通の株式会社、京成バスシステム株式会社で構成されます京成バス千葉セントラル株式会社というふうに社名が変更になります。
- また、今の船橋新京成バスさんの鎌ケ谷営業所につきましては、京成トランジットバス株式会社、こちらを存続会社としまして、松戸新京成バスさん、東京ベイシティ交通さん、船橋の鎌ケ谷営業所、こちらの４社で構成されて、京成バス千葉ウエスト株式会社というふうに変更になります。
- 似たような名前ですけれども、千葉県下で３社、京成バスの会社ができます。西、中、東というような感じです。
- こちらの社名変更を４月１日から行うのですが、また来年、これに加えまして、来年の４月１日、今度は京成バス株式会社、こちらのほうも営業所単位で分離されて合流することになっています。
- 最終的には、京成バスグループというのはこの４社、あと１つが、東京に１社できます。
- これに、私どもも担当させていただいていますコミュニティバス、こちらの運行につきましては、今後とも白井市さんの御意向に従いまして、引き続き新会社の下、運行してまいる予定でございます。
- こちらの運行に際しまして、各社のサービス、そちらにつきましては、現存のサービスを引き続き提供させていただくというような形になります。

- また、市内を走っております一般路線バスにつきましても、ちばレインボーバス、船橋新京成バス、こちらの一般路線バスのサービスにつきましても、ほぼ同じような形で御提供させていただく予定でございます。
- こちらにつきましては、もう既に京成バスの各社におきまして、ホームページのほう発表しておりますので、そちらにサービスを含めまして御覧いただいて、そちらで確認をしていただければと思います。
- また、今後サービスの変更等、そういうことも生じるかもしれませんので、その際にもホームページで随時発表してまいりますので、そちらを御覧いただければということです。
- したがいまして、引き続きよろしくお願いいたしますということでございます。簡単ではございますけれども、以上でございます。

【議長】

- ありがとうございました。ただいまの御説明の中で御疑問点ございましたらお受けしたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。

【委員】

- 先ほどとかぶってしまうので、お願いだけ最後にというか、１つお願いさせていただきたいです。
- 先ほどもありましたとおりで、サービス向上については御協力したいと思っているのですが、統廃合については、十分注意して御対応いただきたいというお願いです。
- これまでもそうだったのですけれども、結果論で廃線しました、減便しましたというのが事後連絡のように来るので、きちんと地元住民の方と合意を取った上で、統廃合するのはいいと思うのですけれども、こういうふうにしているからには、統廃合すると宣言されていると思っているので、そこを否定するつもりはないのですけれども、サービス低下につながらないように十分お願いしたいと思います。

【委員】

- 今回のこの再編事業といいますのは、まず第一に、目的が営業力の強化と採用、人の採用ですね。こちらに力を注ぐということに注力するために行うものが一番の目的でございます。
- したがいまして、全て再編につきまして、それに伴ってサービスの低下を、合理化ということを言葉で表した形で、そちらのほうのサービスの低下を伴うようなことは予定するものではございませんので、御安心いただきたいと思います。

【議長】

- ありがとうございました。おあといかがでございましょうか。よろしいでしょうか。
- 特にないようでございましたら、以上をもちまして第２回協議会を終了したいと思います。委員の皆様方、本当に議論、御協力ありがとうございました。
- 以上をもちまして議事を事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

- 次回の本協議会の開催予定ついて連絡させていただきます。
- 次回の協議会は、７月ころを目途に開催したいと考えております。
- 議題については、「計画策定に係る現状と課題」などを予定していますが、開催時期や議題等の詳細については、改めてご連絡をさせていただきます。
- 次に、本日の報酬等の振込に説明させて頂きます。
- 本日の会議の委員報酬等の対象者の皆様へは、源泉徴収税額を引いた額を、ご指定の口座に振り込ませていただく予定です。
- 以上をもちまして令和６年度第２回白井市地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。長時間にわたりお疲れさました。